

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-325066

(43) 公開日 平成6年(1994)11月25日

(51) Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/30

識別記号

T

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号 特願平5-110592

(22) 出願日 平成5年(1993)5月12日

(71) 出願人 593089895

株式会社オービック・ビジネス・コンサル
タント

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号

(72) 発明者 和田 成史

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 株式
会社オービック・ビジネス・コンサルタン
ト内

(72) 発明者 中山 茂

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 株式
会社オービック・ビジネス・コンサルタン
ト内

(74) 代理人 弁理士 北野 好人

最終頁に続く

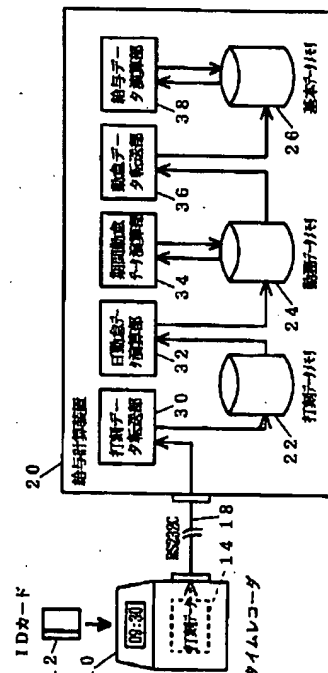
(54) 【発明の名称】 給与計算方法及びシステム

(57) 【要約】

【目的】 フロッピーディスクによるデータの受け渡しを行うことなく、タイムレコーダにより収集された打刻データを用いて、就業者毎の給与計算を迅速におこなうことができる給与計算方法及びシステムを提供する。

【構成】 タイムレコーダ10に蓄積された打刻データを読み込んで、打刻データメモリ22に転送する。予め定められた勤務体系データに基づいて、打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日勤怠データを演算して勤務データメモリ24に格納し、勤怠締め日に基づいて、日勤怠データを集計して、就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間勤怠データを演算する。勤務データメモリ24に記憶された期間勤怠データを、基本給等を定めた基本給与データ等を記憶する基本データメモリ26に転送し、基本データメモリ26に記憶された期間勤怠データと基本給与データに基づいて支給すべき給与データを演算する。

給与計算システム



【特許請求の範囲】

【請求項1】 タイムレコードに蓄積された就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを読込んで、打刻データを記憶する打刻データメモリに転送し、
 予め定められた勤務体系データに基づいて、前記打刻データメモリに記憶された打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データを演算して勤務データメモリに格納し、
 予め定められた動怠締め日に基づいて、前記日動怠データを集計して、予め定められた就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データを演算して前記勤務データメモリに格納し、
 前記勤務データメモリに記憶された期間動怠データを、基本給等を定めた基本給与データ等を記憶する基本データメモリに転送し、
 前記基本データメモリに記憶された期間動怠データと基本給与データに基づいて、前記就業単位期間に支給すべき給与データを演算することを特徴とする給与計算方法。

【請求項2】 就業者が打刻することにより、就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを収集し、収集した打刻データを蓄積するタイムレコードと；就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを記憶する打刻データメモリと、
 出勤日、休日等を定めた勤務体系データと、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データと、予め定められた就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データとを、就業者毎に記憶する勤務データメモリと、
 基本給等を定めた基本給与データと、前記就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データと、前記就業単位期間に支給すべき給与データとを、就業者毎に記憶する基本データメモリと、
 前記タイムレコードに蓄積された打刻データを読込んで、前記打刻データメモリに転送する打刻データ転送手段と、
 前記勤務データメモリに記憶された勤務体系データに基づいて、前記打刻データメモリに記憶された打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データを演算する日動怠データ演算手段と、
 予め定められた動怠締め日に基づいて、前記勤務データメモリに記憶された日動怠データを集計して、前記就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データを演算する期間動怠データ演算手段と、
 前記勤務データメモリに記憶された期間動怠データを、前記基本データメモリに転送する期間動怠データ転送手段と、
 前記基本データメモリに記憶された期間動怠データと基本給与データに基づいて、前記就業単位期間に支給すべき給与データを演算する給与データ演算手段とを有する給与計算装置と；を備えたことを特徴とする給与計算シ

ステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はタイムレコードの打刻データを用いて給与データを計算する給与計算方法及びシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】就業者の出勤時刻、退出時刻等を記録するタイムレコードとして、従来はタイムカードに時刻を印字記録するものが多かったが、近年、打刻した時刻を電子データとして蓄積する電子タイムレコードが増えてきている。電子タイムレコードによれば、蓄積した打刻データをコンピュータによりデータ処理することができるので、正確な動怠データを迅速に得ることができる。

【0003】従来、電子タイムレコードにより蓄積された打刻データは、就業管理プログラムを用いてコンピュータによりデータ処理され、就業時間、残業時間、遅早（遅刻・早退）時間等の動怠データが求められていた。演算結果である動怠データは所定のフォーマットによりフロッピーディスクに格納される。給与計算を行なう際には、フロッピーディスクから動怠データを読み出し、この動怠データに基づいて、給与計算プログラムにより給与計算を行なっていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このように、従来は、電子タイムレコードにより打刻した時刻を電子データとして得られる場合でも、就業管理プログラムと給与計算プログラムとを用いる必要があり、しかも、就業管理プログラムと給与計算プログラムとの間でフロッピーディスクを用いてデータの受け渡しを行なう必要があるもので、打刻データの処理に時間がかかると共に、オペレータに対する負担が大きいという問題があった。

【0005】本発明の目的は、フロッピーディスクによるデータの受け渡しを行うことなく、タイムレコードにより収集された打刻データを用いて、就業者毎の給与計算を迅速におこなうことができる給与計算方法及びシステムを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的は、タイムレコードに蓄積された就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを読込んで、打刻データを記憶する打刻データメモリに転送し、予め定められた勤務体系データに基づいて、打刻データメモリに記憶された打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データを演算して勤務データメモリに格納し、予め定められた動怠締め日に基づいて、日動怠データを集計して、予め定められた就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データを演算して勤務データメモリに格納し、勤務データメモリに記憶された期間動怠データを、基本給等を定めた基本給与データ等を記憶する基本データメモリに転送

し、基本データメモリに記憶された期間動怠データと基本給与データに基づいて、就業単位期間に支給すべき給与データを演算することを特徴とする給与計算方法によって達成される。

【0007】上記目的は、就業者が打刻することにより、就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを収集し、収集した打刻データを蓄積するタイムレコーダと；就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを記憶する打刻データメモリと、出勤日、休日等を定めた勤務体系データと、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データと、予め定められた就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データとを、就業者毎に記憶する勤務データメモリと、基本給等を定めた基本給与データと、就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データと、就業単位期間に支給すべき給与データとを、就業者毎に記憶する基本データメモリと、タイムレコーダに蓄積された打刻データを読み込んで、打刻データメモリに転送する打刻データ転送手段と、勤務データメモリに記憶された勤務体系データに基づいて、打刻データメモリに記憶された打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データを演算する日動怠データ演算手段と、予め定められた動怠締め日に基づいて、勤務データメモリに記憶された日動怠データを集計して、就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データを演算する期間動怠データ演算手段と、勤務データメモリに記憶された期間動怠データを、基本データメモリに転送する期間動怠データ転送手段と、基本データメモリに記憶された期間動怠データと基本給与データに基づいて、就業単位期間に支給すべき給与データを演算する給与データ演算手段とを有する給与計算装置と；を備えたことを特徴とする給与計算システムによって達成される。

【0008】

【作用】本発明によれば、タイムレコーダに蓄積された就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを読み込んで、打刻データを記憶する打刻データメモリに転送し、予め定められた勤務体系データに基づいて、打刻データメモリに記憶された打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データを演算して勤務データメモリに格納し、予め定められた動怠締め日に基づいて、日動怠データを集計して、予め定められた就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間動怠データを演算して勤務データメモリに格納し、勤務データメモリに記憶された期間動怠データを、基本給等を定めた基本給与データ等を記憶する基本データメモリに転送し、基本データメモリに記憶された期間動怠データと基本給与データに基づいて、就業単位期間に支給すべき給与データを演算するようにしたので、フロッピーディスクによるデータの受け渡しを行うことなく、タイムレコーダにより収集された打刻データを用いて、就業者毎の給与計算を迅速におこなうことができる。

【0009】

【実施例】本発明の一実施例による給与計算システムについて図1乃至図9を用いて説明する。給与計算システム全体の構成を図1に示す。本実施例の給与計算システムは、就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを収集、蓄積するタイムレコーダ10と、タイムレコーダ10により収集、蓄積された打刻データを用いて給与データを計算する給与計算装置20から構成されている。タイムレコーダ10と給与計算装置20とはRS232Cケーブル18により接続されている。

【0010】タイムレコーダ10は、就業者が打刻することにより、就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを収集し、収集した打刻データを蓄積する。就業者はそれぞれがIDカード12を所有している。就業者が、出勤時や退出時に、自分のIDカード12をタイムレコーダ10に挿入すると、出勤時刻、退出時刻等の打刻データが生成される。生成された打刻データは打刻順に内部メモリ14に蓄積される。

【0011】各打刻データは、図2に示すように、タイムレコーダ10の端末番号と、挿入されたIDカード12のID番号と、出勤か退出かを示す出退コードと、早出、遅刻、私用外出、再入、早退、残業等の種別を示す異例コードと、挿入された時刻を示す操作時間（月、日、曜、時、分）と、早出時数、遅刻時数、早退時数、残業時数等の予め設定された時刻からの時間を示す異例時数とから構成されている。

【0012】給与計算装置20には、図1に示すように、マスタデータを格納する3つのメモリ22、24、26が設けられている。打刻データメモリ22と勤務データメモリ24と基本データメモリ26である。これら打刻データメモリ22、勤務データメモリ24、基本データメモリ26の詳細について図2乃至図9を用いて説明する。

【0013】打刻データメモリ22は、タイムレコーダ10により収集、蓄積された生の打刻データを記憶するものである。図2に示すように、上述した構成の打刻データがタイムレコーダ10から転送されて格納される。タイムレコーダ10が複数台の場合には、各タイムレコーダ10からの全ての打刻データが格納される。打刻データの具体例を図2に示す。端末番号「0001」のタイムレコーダ10にID番号「0001」のIDカード12が挿入された場合の打刻データである。出退コードは退出を示す「1」であり、異例コードは残業を示す「06」である。操作時刻は「9月16日木曜日18時34分」を示している。18時以降が残業時間であると設定されているので、操作時刻が18時34分であることから、異例時数は00時間34分となっている。

【0014】勤務データメモリ24は、出勤日、休日等を定めた勤務体系データと、各就業日の就業時間、残業時間等の日動怠データと、予め定められた就業単位期間

の就業時間、残業時間等の期間勤怠データとを含む勤務データを、就業者毎に記憶するものである。各勤務データは、図3に示すように、就業者に付された会社内の番号を示す社員番号と、就業者が所有するIDカードに記録されたID番号と、就業者の勤務体系を示す勤務体系データと、各就業日の出勤時刻、退出時刻、遅早時間、残業時間等を示す日勤怠データと、その月の出勤日数、休日出数、欠勤日数、全出勤時間、全遅早時間、全残業時間等を示す月勤怠データとから構成されている。

【0015】勤務データ中の勤務体系データの具体例を図4に示す。ID番号「0000000001」である就業者の勤務体系は、月曜日から金曜日までが「通常出勤」で、日曜日と土曜日が「休日出勤」であり、祝日も「休日出勤」であることを示している。日勤怠データと月勤怠データの具体例を図5に示す。

【0016】日勤怠データは、図5の中央部分に14日分が示されている。例えば最上欄に記載された日勤怠データは、「9月16日木曜日」の勤怠データである。この日の勤務体系は「通常出勤」であり、出勤事由は「通常勤務」である。出勤時刻は「8時35分」で、退出時刻は「18時34分」であるので、出勤時間は通常勤務通り「7時間45分」であり、残業時間は「0時間30分」である。残業は18時以降であるが、残業時間として認められるのは、30分単位で端数は切り捨てられるので、退出時刻は「18時34分」であるが、残業時間は「0時間30分」になっている。

【0017】平成5年10月分として、「9月16日」から「10月15日」までの日勤怠データが、勤務データメモリ24に格納されている。月勤怠データは、図5の下部に記載されている。10月分の月勤怠データは、「9月16日」から「10月15日」までの日勤怠データの各項目を集計することにより得られる。図5に示す10月分の月勤怠データでは、出勤日数は「20日」であり、休日出勤日数、特別休暇日数、有給休暇日数は共に「0日」であり、欠勤日数は「1日」である。全出勤時間は「155時間00分」であり、全遅早時間は「00時間00分」であり、全普通残業時間は「8時間00分」であり、深夜残業時間、休日出勤残業時間、残業予備時間は共に「00時間00分」である。

【0018】基本データメモリ26は、氏名、住所等の就業者データと、基本給等を定めた基本給与データと、就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間勤怠データと、就業単位期間に支給すべき給与データとを含む基本データを、就業者毎に記憶するものである。各基本データは、図6に示すように、就業者に付された会社内の番号である社員番号と、就業者の氏名、住所と、基本給等を示す基本項目と、住民税額等を示す住民税項目と、健康保険料等を示す社会保険項目等と、給与の振込み先銀行等を示す給与振込項目と、食事手当等を示す計算式単価項目とを含んでいる。更に、各基本データとして、1

月から12月までの月勤怠データと、1月から12月までの給与データが含まれている。

【0019】基本データにおける、社員番号、就業者の氏名、住所、基本項目、住民税項目、社会保険項目等の具体例を図7に示す。図7に示す基本データの就業者は、社員番号が「0100」、氏名が「山田一朗」、住所が「神奈川県横浜市中区山手2-1-1」である。基本項目としては、所属コードが「11-00（経理部財務課）」、性別が「0（男）」、生年月日が「昭和22年9月21日」、入社年月日が「昭和44年4月1日」、給与区分が「0（月給）」、基本給が「264000円」、非課税交通費が「3500円」である。住民税項目としては、市町村コードが「123456」、初回6月分の住民税が「20000円」、7月分以降が「20000円」である。社会保険項目としては、健康賞与特別がコード「1」、雇用保険区分がコード「1」、健康保険料が「8400円」、厚生年金保険が「7240円」である。勤怠単価項目等としては、普通残業が時給「1580円」、深夜残業が時給「1580円」、休出残業が時給「1580円」、残業予備が時給「1580円」、欠勤控除額が「11000円」、遅早控除が時間当たり「1000円」、有給休暇の日数が「24日」、有給休暇の残り日数が「22日」である。

【0020】基本データにおける、給与振込項目と計算式単価項目の具体例を図8に示す。給与振込項目中の給与銀行1振込項目として、振込区分が「2（固定銀行振込）」、会社銀行区分が「0」、振込銀行支店が「5001-100（〇×銀行新宿支店）」、預金区分が「1（普通預金）」、口座番号が「0912011」であり、振込みする固定金額が「200000円」である。また、給与振込項目中の賞与銀行1振込項目として、振込区分が「2（固定銀行振込）」、会社銀行区分が「0」、振込銀行支店が「5001-100（〇×銀行新宿支店）」、預金区分が「1（普通預金）」、口座番号が「0912011」であり、振込する固定金額が「500000円」である。

【0021】基本データにおける、期間勤怠データと給与データの具体例を図9に示す。図9は給与明細書の入力画面を示している。期間勤怠データである月勤怠データは、図9の給与明細書上部に記載されている。10月分の月勤怠データでは、出勤日数は「20日」であり、休日出勤日数、特別休暇日数、有給休暇日数は共に「0日」であり、欠勤日数は「1日」である。全出勤時間は「155時間00分」であり、全遅早時間は「00時間00分」であり、全普通残業時間は「8時間00分」であり、深夜残業時間、休日出勤残業時間、残業予備時間は共に「00時間00分」である。

【0022】給与データとしては、図9に示すように、基本給が「264000円」、職能給が「9000円」であり、役職手当が「4000円」、家族手当が「10

00円」、住宅手当が「7000円」、技能手当が「9000円」、職務手当が「7000円」、調整手当が「8650円」、会議手当が「3420円」、皆勤手当が「2000円」、食事手当が「1700円」、残業手当が「12640円」、通勤手当が「3500円」、減額金が「11000円」である。残業手当は、残業時間「8時間00分」に残業時給「1580円」を乗じて求められる。

【0023】また、控除金額として、健康保険料が「8400円」、厚生年金保険料が「7240円」、雇用保険料が「1296円」であり、所得税が「5270円」、住民税が「20000円」、親睦会費が「2500円」、癌保険料が「3500円」、財形貯蓄額が「2000円」、組合会費が「1500円」である。その結果、総支給金額が「321910円」であり、控除合計額が「51706円」であり、差引支給額が「270204円」であり、銀行振込額が「200000円」であり、現金支給額が「70204円」である。

【0024】次に、図1に説明を戻し、給与計算装置20内の転送部30、36、演算部32、34、38について説明する。打刻データ転送部30は、タイムレコーダ10の内部メモリ14に蓄積された打刻データを、RS232Cケーブル18を介して読み込み、打刻データメモリ22に順次格納する。打刻データの転送は毎日定時に行ってもよいし、何日かおきに決まった日に行ってもよい。打刻データメモリ22に転送された打刻データはタイムレコーダ10の内部メモリ14から削除される。

【0025】日勤怠データ演算部32は、勤務データメモリ24に記憶された勤務体系データに基づいて、打刻データメモリ22に記憶された打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日勤怠データを演算する。同じID番号の複数の打刻データから、出勤時刻、退社時刻、遅早時間、残業時間等を示す日勤怠データを演算する。そのとき、勤務データメモリ24に記憶された勤務体系データを参照する。操作日が通常出勤であるが休日出勤であるかに応じて遅早時間や残業時間の計算ルールが異なるからである。

【0026】期間勤怠データ演算部34は、予め定められた勤怠締め日に基づいて、勤務データメモリ24に記憶された日勤怠データを集計して、就業単位期間（本実施例では月）の就業時間、残業時間等の期間勤怠データ（月勤怠データ）を演算する。図5に示す具体例では、勤怠締め日が毎月15日であるので、9月16日から10月15日までの日勤怠データから、その月の出勤日数、休出日数、欠勤日数をカウントし、日勤怠データの出勤時間、遅早時間、残業時間等を集計して、全出勤時間、全遅早時間、全残業時間等を示す月勤怠データを演算する。演算された月勤怠データは、勤務データメモリ24の月勤怠データ領域に格納される。

【0027】勤怠データ転送部36は、勤務データメモ

リ24に記憶された月勤怠データを读出して、基本データメモリ26の月勤怠データ領域に格納する。したがって、図5に示す勤務データメモリ24中の月勤怠データが、図9に示す給与明細書中の月勤怠データ領域に転送される。給与データ演算部38は、基本データメモリ26に記憶された月勤怠データと基本給与データに基づいて、その月に支給すべき給与データを演算する。月勤怠データである出勤日数、休出日数、欠勤日数、全出勤時間、全遅早時間、全残業時間等に基づいて、残業手当や、欠勤遅早による減額金や、皆勤手当、食事手当等を演算する。そして、基本給与データに基づいて、図9に示すように、その月の給与が自動的に演算される。

【0028】次に、本実施例による給与計算システムの動作について説明する。就業者が、出勤時や退出時に自分のIDカード12をタイムレコーダ10に挿入する。生成された打刻データは打刻順に内部メモリ14に蓄積される。オペレータが給与計算装置20を操作すると、打刻データ転送部30により、タイムレコーダ10の内部メモリ14に蓄積された打刻データが、RS232Cケーブル18を介して打刻データメモリ22に転送される。

【0029】転送された打刻データは、日勤怠データ演算部32により、勤務データメモリ24に記憶された勤務体系データを参照しながら、各就業日の就業時間、残業時間等の日勤怠データが演算される。演算された日勤怠データは勤務データメモリ24に格納される。予め定められた勤怠締め日になると、期間勤怠データ演算部34により、勤務データメモリ24に記憶された日勤怠データが集計され、その月の出勤日数、休出日数、欠勤日数、全出勤時間、全遅早時間、全残業時間等の月勤怠データが演算される。演算された月勤怠データは、勤務データメモリ24の月勤怠データ領域に格納される。

【0030】月勤怠データが求まると、勤怠データ転送部36により、勤務データメモリ24から基本データメモリ26に転送される。続いて、給与データ演算部38により、基本データメモリ26に記憶された月勤怠データと基本給与データに基づいて、その月に支給すべき給与データが演算される。このように本実施例によれば、フロッピーディスクによるデータの受け渡しを行うことなく、タイムレコーダにより収集された打刻データを用いて、就業者毎の給与計算を迅速におこなうことができる。

【0031】本発明は上記実施例に限らず種々の変形が可能である。例えば、上記実施例では就業単位期間を1か月としたが、1週間等の就業単位期間でもよい。また、上記実施例における勤務データや基本データの各項目の具体例は、あくまで例示であって会社の給与体系により異なりうる。

【0032】

【発明の効果】以上の通り、本発明によれば、タイムレ

コードに蓄積された就業者の出勤時刻、退出時刻等の打刻データを読込んで、打刻データを記憶する打刻データメモリに転送し、予め定められた勤務体系データに基づいて、打刻データメモリに記憶された打刻データから、各就業日の就業時間、残業時間等の日勤怠データを演算して勤務データメモリに格納し、予め定められた勤怠締め日に基づいて、日勤怠データを集計して、予め定められた就業単位期間の就業時間、残業時間等の期間勤怠データを演算して勤務データメモリに格納し、勤務データメモリに記憶された期間勤怠データを、基本給等を定め

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例による給与計算システムの示すブロック図である。

【図2】本発明の一実施例による給与計算システムの打刻データメモリの説明図である。

【図3】本発明の一実施例による給与計算システムの勤務データメモリの説明図である。

【図4】勤務データメモリ中の勤務体系データの具体例を示す図である。

【図5】勤務データメモリ中の日勤怠データと月勤怠データの具体例を示す図である。

【図6】本発明の一実施例による給与計算システムの基本データメモリの説明図である。

【図7】基本データメモリ中の社員番号、就業者の氏名、住所、基本項目、住民税項目、社会保険項目等の具体例を示す図である。

【図8】基本データメモリ中の給与振込項目と計算式単価項目の具体例を示す図である。

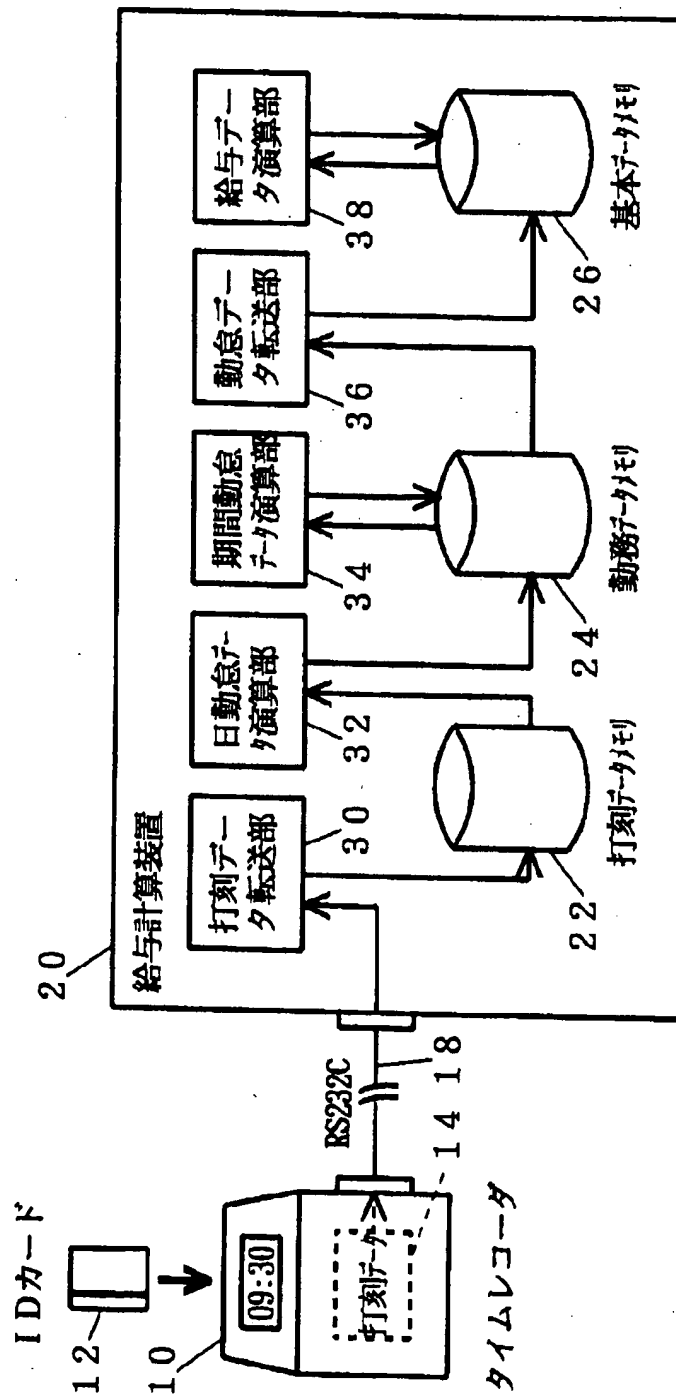
【図9】基本データメモリ中の期間勤怠データと給与データの具体例を示す図である。

【符号の説明】

- 10…タイムレコーダ
- 12…IDカード
- 14…内部メモリ
- 18…RS232Cケーブル
- 20…給与計算装置
- 22…打刻データメモリ
- 24…勤務データメモリ
- 26…基本データメモリ
- 30…打刻データ転送部
- 32…日勤怠データ演算部
- 34…期間勤怠データ演算部
- 36…勤怠データ転送部
- 38…給与データ演算部

【図1】

給与計算システム



打刻データ

打刻データ 1		端末番号	0001
打刻データ 2		ID番号	0001
打刻データ 3		出退コード	1
打刻データ 4		異例コード	06
.....		操作時刻	月
⋮			日
			曜
			時
			分
			秒
.....		異例時数	時
.....			分

【図3】

勤務データメモリ

勤務データ1	社員番号	0100
勤務データ2	ID番号	0001
勤務データ3	勤務体系	日
勤務データ4		月
.....		火
		水
		木
		金
		土
	1日	出勤
		退出
		遅早
		残業
	
	2日	出勤
		退出
		遅早
		残業
	

	月勤怠データ	出勤
		休出
	
		欠勤
		出勤
		遅早
		残業
	

※※※社會動力情報※※※

[illegible][illegible]

所屬名：経理部 財務課		氏名		11-02 0100 山田 一朗	
日付	勤務体系	出勤	勤怠	出勤時刻	出勤時刻
09/16	1:出勤	0:10	0:10	8:35	18:34
09/17	1:出勤	0:10	0:10	8:40	19:04
09/18	9:休	0:10	0:10		
09/19	9:休	0:10	0:10		
09/20	1:出勤	0:10	0:10	8:43	19:17
09/21	1:出勤	9:欠	9:欠		
09/22	1:出勤	0:10	0:10	8:39	18:46
09/23	9:休	0:10	0:10		
09/24	1:出勤	0:10	0:10	8:41	19:24
09/25	9:休	0:10	0:10		
09/26	9:休	0:10	0:10		
09/27	1:出勤	0:10	0:10	9:00	19:11
09/28	1:出勤	0:10	0:10	9:00	18:49
09/29	1:出勤	0:10	0:10	9:00	18:05
合計	出勤 休出 特休 有休 欠勤	20.0	0.0	0.0	0.0
	出勤時刻	20.0	0.0	1.0	155:00

【図6】

基本データメモリ

基本データ1	社員番号	0100
基本データ2	氏名	山田
基本データ3	住所	
基本データ4	基本項目	
.....	住民税項目	
	社会保険項目	
	給与振込項目	
	計算式単価項目	
	1月勤怠	出勤
		休出
		遅早
		残業
	
	2月勤怠	出勤
		退出
		遅早
		残業
	

	1月給与	基本
		役職
		遅早
		残業
	
	2月給与	基本
		役職
		遅早
		残業
	

[illegible]

社員番号 01000

フリガナ氏名

山田 一郎

住所

神奈川県横浜市中央区山手

登録件数: 25

給与銀行1振込項目

給与銀行1振込項目

振込口座番号

振込口座名

振込口座種別

振込口座所在地

給与銀行2振込項目

給与銀行2振込項目

振込口座番号

振込口座名

振込口座種別

振込口座所在地

賞与銀行1振込項目

賞与銀行1振込項目

振込口座番号

振込口座名

振込口座種別

振込口座所在地

賞与銀行2振込項目

賞与銀行2振込項目

振込口座番号

振込口座名

振込口座種別

振込口座所在地

計算式単価項目

計算式単価項目

振込口座番号

振込口座名

振込口座種別

振込口座所在地

《社員番号順》

現在: 2/2 ページ

印刷履歴

参照

【图9】

所屬名: 經理部 財務課		氏 名		※ ※ ※ 給与処理 ※ ※ ※		平成 5 年 10 月分		※ ※ ※ 未入力社員	
所屬社員番号		山田 一朗		人力: 済		計算: 済		未入力社員	
11-00	0100	出勤時間	遅早時間	普通残業	深夜残業	休出残業	残業手備	未入力社員	0
出勤	155:00	0:00	126:40	0	0	0	0	未入力社員	0
出勤	155:00	0:00	8:00	0:00	0:00	0:00	0:00	未入力社員	0
基本	給職	能	給役職	手当家族	手当住宅	手当技能	手当職務	手当調整	手当
264000	9000	4000	1000	7000	9000	7000	8650	8650	8650
会議	手当	物価	手当	食事	手当	残業	手当	通勤	手当
3420	2000	0.00	0.00	1700	12640	3500	11000	11000	11000
健康	保険	厚生	年金	保	険	料	所	得	保
8400	7240	1236	5270	20000	2500	3500	2000	2000	2000
組合	会費	共済	会費	傷害	保険	社	字	賃	借
1500	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	0
雇保対象外	給文給金	給金	給金	給金	給金	給金	給金	給金	給金
0	321910	0	51706	270204	0	200000	70204	70204	70204

(72)發明者 黒圖 成一

(72) 発明者 岩崎 静男

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 株式
会社オービック・ビジネス・コンサルタン
ト内

(72)発明者 岡本 敦

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 株式
会社オービック・ビジネス・コンサルタン
ト内

Disclaimer:

This English translation is produced by machine translation and may contain errors. The JPO, the INPIT, and those who drafted this document in the original language are not responsible for the result of the translation.

Notes:

1. Untranslatable words are replaced with asterisks (****).
2. Texts in the figures are not translated and shown as it is.

Translated: 23:31:39 JST 04/02/2007

Dictionary: Last updated 03/16/2007 / Priority:

FULL CONTENTS

[Claim(s)]

[Claim 1] The time-recording data of the attendance time of the worker accumulated in the time recorder, recession time, etc. is read. Transmit to the stamping data memory which memorizes stamping data, and it is based on the service system data defined beforehand. From the stamping data memorized by said stamping data memory, calculate the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., store in a service data memory, and said day diligence-and-indolence data is totaled based on the diligence-and-indolence bundle day set beforehand. Calculate the period diligence-and-indolence data of the working hours of the employment unit period set beforehand, overtime, etc., and it stores in said service data memory. It transmits to the basic data memory which memorizes the basic salary data which defined the period diligence-and-indolence data memorized by said service data memory for basic wage etc. The payroll calculation method characterized by calculating the salary data which should be provided during [said] the employment unit based on the period diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by said basic data memory.

[Claim 2] The time-recording data memory which collects the time-recording data of the attendance time of a worker, recession time, etc., and memorizes the time recorder and the time-recording data of the attendance time of; worker, recession time, etc. which store collected time-recording data when a worker records the time, The service system data which set the work day, the holiday, etc., and the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., The service data memory which memorizes the period diligence-and-indolence data of the working hours of the employment unit period set beforehand, overtime, etc. for every worker, The basic salary data which defined basic wage etc., and the period diligence-and-indolence data of the working hours of said employment unit period, overtime, etc., The basic data memory which memorizes the salary data which should

be provided during [said] the employment unit for every worker, and the time-recording data stored in said time recorder are read. It is based on the service system data remembered to be a stamping data transfer means to transmit to said stamping data memory by said service data memory. From the stamping data memorized by said stamping data memory, based on the diligence-and-indolence bundle day beforehand set as a day diligence-and-indolence data operation means to calculate the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., total and the day diligence-and-indolence data memorized by said service data memory The working hours of said employment unit period, A period diligence-and-indolence data operation means to calculate the period diligence-and-indolence data of overtime etc., A period diligence-and-indolence data transfer means to transmit the period diligence-and-indolence data memorized by said service data memory to said basic data memory, The payroll calculation system characterized by having the payroll calculation equipment which has a salary data operation means to calculate the salary data which should be provided during [said] the employment unit, and; based on the period diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by said basic data memory.

[Detailed Description of the Invention]

[0001]

[Industrial Application] This invention relates to the payroll calculation method and system which calculate salary data using the time-recording data of a time recorder.

[0002]

[Description of the Prior Art] Although the time card had conventionally many which carry out printing record of the time as a time recorder which records the attendance time of a worker, recession time, etc., the electronic time recorders which accumulate the recorded time as electronic data in recent years are increasing in number. Since data processing of the stored time-recording data can be carried out by computer according to the electronic time recorder, exact diligence-and-indolence data can be obtained quickly.

[0003] Conventionally, data processing of the time-recording data stored by the electronic time recorder was carried out by computer using the employment control program, and the diligence-and-indolence data of working hours, overtime, **** (lateness and leaving early) time, etc. was called for. The diligence-and-indolence data which is an operation result is stored in a floppy disk by predetermined format. When performing payroll calculation, diligence-and-indolence data was read from the floppy disk, this diligence-and-indolence data was based, and the payroll calculation program was performing payroll calculation.

[0004]

[Problem to be solved by the invention] thus, [the time recorded by the electronic time recorder] conventionally even when obtained as electronic data Since it is moreover necessary to use an employment control program and a payroll calculation program, and to deliver data using a floppy disk between an employment control program and a payroll calculation program While processing of stamping data took time, there was a problem that the burden to an operator was large.

[0005] The purpose of this invention is to offer the payroll calculation method and system which can perform payroll calculation for every worker quickly using the time-recording data collected by the time recorder, without delivering the data based on a floppy disk.

[0006]

[Means for solving problem] The above-mentioned purpose reads the time-recording data of the attendance time of the worker accumulated in the time recorder, recession time, etc. Transmit to the stamping data memory which memorizes stamping data, and it is based on the service system data defined beforehand. From the stamping data memorized by the stamping data memory, calculate the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., store in a service data memory, and day diligence-and-indolence data is totaled based on the diligence-and-indolence bundle day set beforehand. Calculate the period diligence-and-indolence data of the working hours of the employment unit period set beforehand, overtime, etc., and it stores in a service data memory. It transmits to the basic data memory which memorizes the basic salary data which defined the period diligence-and-indolence data memorized by the service data memory for basic wage etc. It is attained by the payroll calculation method characterized by calculating the salary data which should be provided during the employment unit based on the period diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by the basic data memory.

[0007] The above-mentioned purpose collects the stamping data of the attendance time of a worker, recession time, etc., when a worker stamps. The time-recording data memory which memorizes the time recorder and the time-recording data of the attendance time of; worker, recession time, etc. which store collected time-recording data, The service system data which set the work day, the holiday, etc., and the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., The service data memory which memorizes the period diligence-and-indolence data of the working hours of the employment unit period set beforehand, overtime, etc. for every worker, The basic salary data which defined basic wage etc., and the period diligence-and-indolence data of the working hours of an employment unit period, overtime, etc., The basic data memory which memorizes the salary data which should be provided during the employment unit for every worker, and the time-recording data stored in the time recorder are read. It is based on the service system data remembered to be a

stamping data transfer means to transmit to a stamping data memory by the service data memory. From the stamping data memorized by the stamping data memory, based on the diligence-and-indolence bundle day beforehand set as a day diligence-and-indolence data operation means to calculate the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., total and the day diligence-and-indolence data memorized by the service data memory. The working hours of an employment unit period, A period diligence-and-indolence data operation means to calculate the period diligence-and-indolence data of overtime etc., A period diligence-and-indolence data transfer means to transmit the period diligence-and-indolence data memorized by the service data memory to a basic data memory, It is attained by the payroll calculation system characterized by having the payroll calculation equipment which has a salary data operation means to calculate the salary data which should be provided during the employment unit, and; based on the period diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by the basic data memory.

[0008]

[Function] According to this invention, the time-recording data of the attendance time of the worker accumulated in the time recorder, recession time, etc. is read. Transmit to the stamping data memory which memorizes stamping data, and it is based on the service system data defined beforehand. From the stamping data memorized by the stamping data memory, calculate the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., store in a service data memory, and day diligence-and-indolence data is totaled based on the diligence-and-indolence bundle day set beforehand. Calculate the period diligence-and-indolence data of the working hours of the employment unit period set beforehand, overtime, etc., and it stores in a service data memory. It transmits to the basic data memory which memorizes the basic salary data which defined the period diligence-and-indolence data memorized by the service data memory for basic wage etc. Since the salary data which should be provided during the employment unit was calculated based on the period diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by the basic data memory Payroll calculation for every worker can be quickly performed using the time-recording data collected by the time recorder, without delivering the data based on a floppy disk.

[0009]

[Working example] The payroll calculation system by one example of this invention is explained using drawing 1 or drawing 9 . The composition of the whole payroll calculation system is shown in drawing 1 . The payroll calculation system of this example consists of payroll calculation equipment 20 which calculates salary data using the time-recording data collected and stored by the time recorder 10 accumulated [which is accumulated and collects the time-recording data of the attendance time of a worker, recession time, etc.], and the time

recorder 10. A time recorder 10 and payroll calculation equipment 20 are connected by the RS232C cable 18.

[0010] When a worker records the time, a time recorder 10 collects the time-recording data of the attendance time of a worker, recession time, etc., and stores collected time-recording data. As for the worker, each owns ID card 12. If a worker inserts its own ID card 12 in a time recorder 10 at the time of attendance and recession, the time-recording data of attendance time, recession time, etc. will be generated. The generated stamping data is stored in the internal memory 14 in order of stamping.

[0011] As each time-recording data is shown in drawing 2 , the terminal number of a time recorder 10, The ID number of inserted ID card 12, and the **** code which shows attendance or recession, At the exceptional code which shows classification, such as early attendance, lateness, private going out, reentry, leaving early, and overtime work, the operate time (at the moon, a day, **, the time part) which shows the inserted time, and the time of early attendance, at the time of a number and lateness, when [exceptional] time from the time set up beforehand, such as a number, is shown, it consists of numbers at the time of a number and overtime work at the time of a number and leaving early.

[0012] As shown in payroll calculation equipment 20 at drawing 1 , three memories 22, 24, and 26 which store master data are formed. They are the stamping data memory 22, the service data memory 24, and the basic data memory 26. The details of these stamping data memory 22, the service data memory 24, and the basic data memory 26 are explained using drawing 2 or drawing 9 .

[0013] The time-recording data memory 22 memorizes the raw time-recording data collected and stored by the time recorder 10. As shown in drawing 2 , the time-recording data of composition of having mentioned above is transmitted and stored from a time recorder 10. When there are two or more time recorders 10, all the time-recording data from each time recorder 10 is stored. The example of stamping data is shown in drawing 2 . It is time-recording data when ID card 12 of an ID number "0001" is inserted in the time recorder 10 of a terminal number "0001." A **** code is "1" which shows recession, and an exceptional code is "06" which shows overtime work. Operation time shows "9 month 16 day Thursday 18 o'clock 34 minute." Since it is set up that 18:00 or subsequent ones is overtime and it will be operation time at 18:34, the number is 00 hours and 34 minutes at the time of exceptional.

[0014] The service data memory 24 memorizes the service data containing the period diligence-and-indolence data of the working hours of the employment unit period beforehand set as the service system data which set the work day, the holiday, etc., and the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., overtime, etc. for every worker. The employee number which shows the number in the company given to the worker as each service data is shown in drawing 3 , The ID number recorded on the ID

card which a worker owns, and the service system data in which the service system of a worker is shown, It consists of moon diligence-and-indolence data to which the number of work days of the moon, **** days, absence days, all the office-going hour, all the **** time, all the overtime, etc. are indicated to be day diligence-and-indolence data in which each employment sunrise work time, recession time, **** time, overtime, etc. are shown.

[0015] The example of the service system data in service data is shown in drawing 4 . From Monday to Friday is "usually attending one's office", Sunday and Saturday are "working on a holiday", and the service system of the worker which is an ID number "0000000001" shows that a public holiday is also "working on a holiday." The example of day diligence-and-indolence data and moon diligence-and-indolence data is shown in drawing 5 .

[0016] As for day diligence-and-indolence data, the part on 14 is shown in a part for the central part of drawing 5 . For example, the day diligence-and-indolence data written in the best column is diligence-and-indolence data on [on "Thursday, September 16"]. The service system of this day is "usually attending one's office", and an attendance reason is "usually working." Since "it will be at 8:35" attendance time and "it will be at 18:34" recession time, the office-going hour is usually as service ("7 hours and 45 minutes"), and overtime is "0 hour and 30 minutes." Although overtime work is after 18:00, since a fraction is omitted per 30 minutes accepting as overtime, "it will be at 18:34" recession time, but overtime has become in "0 hour and 30 minutes."

[0017] As a part for Heisei 5(1993) October, the day diligence-and-indolence data from "September 16" to "October 15" is stored in the service data memory 24. Moon diligence-and-indolence data is indicated in the lower part of drawing 5 . The moon diligence-and-indolence data for October is obtained by totaling each item of the day diligence-and-indolence data from "September 16" to "October 15." By the moon diligence-and-indolence data for October shown in drawing 5 , the number of work days is "20 days", both working-on-a-holiday days, special holiday days, and paid holiday days are "zero day", and absence days are "one day." All the office-going hour is "155 hours and 00 minutes", all the **** time is "00 hours and 00 minutes", full-common overtime is "8 hours and 00 minutes", and both overtime, working-on-a-holiday overtime, and overtime work reserve time are "00 hours and 00 minutes" at midnight.

[0018] The basic data memory 26 memorizes the basic data containing the worker data of a name, an address, etc., the basic salary data which defined basic wage etc., the period diligence-and-indolence data of the working hours of an employment unit period, overtime, etc., and the salary data which should be provided during the employment unit for every worker. The employee number which is a number in the company given to the worker as each basic data is shown in drawing 6 , The name of a worker, an address, the base item that shows basic wage etc., the resident tax item which shows resident tax amount etc., the social insurance item which shows a health insurance premium etc. and the direct deposit item which

shows the transfer place bank of a salary etc., and the formula unit price item which shows a basic allowance for subsistence etc. are included. Furthermore, the moon diligence-and-indolence data from January to December and the salary data from January to December are contained as each basic data.

[0019] Examples, such as the employee number in basic data, a name of a worker, an address, a base item, a resident tax item, and a social insurance item, are shown in drawing 7. In an employee number, "0100" and a name are ["Ichiro Yamada" and the address of the worker of the basic data shown in drawing 7] "2-1-1, Yamate, Naka-ku, Yokohama-shi, Kanagawa-ken." as a base item -- an affiliation code -- "0 (salary)" and basic wage are ["11-00 (Accounts and Finance Department financial affairs division)" and sex / "0 (man)" and a birth date / an entrance date / the tax-exempt transportation expenses of a salary Type] "3500 yen" "264000 yen" on "Showa 44(1969) April 1" on "September 21, Showa 22." As a resident tax item, the price of a part or subsequent ones for "20000 yen" and July is [the resident tax of a cities, towns and villages code for "123456" and first time June] "20000 yen." As a social insurance item, the price of welfare pension insurance is [a code "1" and the health insurance premium of a health insurance bonus special ** code "1" and an unemployment insurance Type] "7240 yen" "8400 yen." In overtime work, as a diligence-and-indolence unit price item etc., overtime work usually at "1580 yen", hourly pay, and midnight Hourly pay "1580 yen", Per time and the days of "1000 yen" and a paid holiday vacation will be [**** overtime work / "1580 yen", hourly pay, and an overtime work reserve / "1580 yen", hourly pay, and the absence amount deducted / the remaining days / of **** deduction / of a paid holiday] "22 days" "11000 yen" for "24 days."

[0020] The example of the direct deposit item in basic data and a formula unit price item is shown in drawing 8. A transfer Type as a salary bank 1 transfer item in a direct deposit item "2 (fixed bank transfer)", The fixed amount which in "5001-100 (Ox bank Shinjuku branch)" and a deposit Type "1 (ordinary deposit)" and an account number are ["0" and a transfer bank branch] "0912011", and a corporate bank Type transfers is "200000 yen." A transfer Type as a bonus bank 1 transfer item in a direct deposit item Moreover, "2 (fixed bank transfer)", The fixed amount which in "5001-100 (Ox bank Shinjuku branch)" and a deposit Type "1 (ordinary deposit)" and an account number are ["0" and a transfer bank branch] "0912011", and a corporate bank Type transfers is "500000 yen."

[0021] The example of the period diligence-and-indolence data in basic data and salary data is shown in drawing 9. Drawing 9 shows the input screen of the pay statement. The moon diligence-and-indolence data which is period diligence-and-indolence data is indicated in the pay statement upper part of drawing 9. By the moon diligence-and-indolence data for October, the number of work days is "20 days", both working-on-a-holiday days, special holiday days, and paid holiday days are "zero day", and absence days are "one day." All the office-going

hour is "155 hours and 00 minutes", all the **** time is "00 hours and 00 minutes", full-common overtime is "8 hours and 00 minutes", and both overtime, working-on-a-holiday overtime, and overtime work reserve time are "00 hours and 00 minutes" at midnight.

[0022] As salary data, as shown in drawing 9, basic wage "264000 yen", Wages on job evaluation is "9000 yen", and, in an executive allowance, a family allowance "4000 yen" "1000 yen", In a skill allowance, an allowance attached to a post "9000 yen" "7000 yen" "7000 yen", [a housing allowance] an adjustment allowance -- a commutation allowance is [a meeting allowance / a bonus for perfect attendance / a basic allowance for subsistence / the cut money of an overtime allowance] "11000 yen" "3500 yen" "12640 yen" "1700 yen" "2000 yen" "3420 yen" "8650 yen." An overtime allowance multiplies overtime ("8 hours and 00 minutes") by overtime work hourly pay "1580 yen", and is called for at it.

[0023] In a health insurance premium, a welfare pension insurance frame "8400 yen" as the amount of money for deduction Moreover, "7240 yen", The charge of unemployment insurance is "1296 yen", and the worker's-property-accumulation-savings frame of social gathering expense is [an income tax / a resident tax / a cancer insurance frame / association dues] "1500 yen" "2000 yen" "3500 yen" "2500 yen" "20000 yen" "5270 yen." As a result, the total provision amount of money is "321910 yen", deduction sum total is "51706 yen", a total allowance is "270204 yen", a bank transfer frame is "200000 yen", and a cash allowance is "70204 yen."

[0024] Next, explanation is returned to drawing 1 and the transmission parts 30 and 36 in payroll calculation equipment 20 and the operation parts 32, 34, and 38 are explained. The time-recording data transfer part 30 reads the time-recording data stored in the internal memory 14 of the time recorder 10 through the RS232C cable 18, and stores it in the time-recording data memory 22 one by one. Transmission of stamping data may be performed on schedule every day, and you may carry out on the day it was decided that will set a number of days. The time-recording data transmitted to the time-recording data memory 22 is deleted from the internal memory 14 of a time recorder 10.

[0025] The day diligence-and-indolence data operation part 32 calculates the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc. from the stamping data memorized by the stamping data memory 22 based on the service system data memorized by the service data memory 24. From two or more stamping data of the same ID number, the day diligence-and-indolence data in which attendance time, recession time, **** time, overtime, etc. are shown is calculated. The service system data memorized by the service data memory 24 is then referred to. It is because the calculation rules of **** time or overtime differ according to whether it is working on a holiday although an operation day is usually attendance.

[0026] The period diligence-and-indolence data operation part 34 totals the day diligence-and-

indolence data memorized by the service data memory 24 based on the diligence-and-indolence bundle day set beforehand, and calculates the period diligence-and-indolence data (moon diligence-and-indolence data) of the working hours of an employment unit period (this example moon), overtime, etc. Since the diligence-and-indolence bundle day is 15 days, every month by the example shown in drawing 5 [data / from September 16 to October 15 / day diligence-and-indolence] The number of work days of the moon, **** days, and absence days are counted, the office-going hour of day diligence-and-indolence data, **** time, overtime, etc. are totaled, and the moon diligence-and-indolence data in which all the office-going hour, all the **** time, all the overtime, etc. are shown is calculated. The calculated moon diligence-and-indolence data is stored in the moon diligence-and-indolence data area of the service data memory 24.

[0027] The diligence-and-indolence data transfer part 36 reads the moon diligence-and-indolence data memorized by the service data memory 24, and stores it in the moon diligence-and-indolence data area of the basic data memory 26. Therefore, the moon diligence-and-indolence data in the service data memory 24 shown in drawing 5 is transmitted to the moon diligence-and-indolence data area in the pay statement shown in drawing 9 . The salary data operation part 38 calculates the salary data which should be provided in the moon based on the moon diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by the basic data memory 26. Based on the number of work days, **** days, absence days, all the office-going hour, all the **** time, all the overtime, etc. which are moon diligence-and-indolence data, an overtime allowance, the cut money by absence ****, a bonus for perfect attendance, a basic allowance for subsistence, etc. are calculated. And based on basic salary data, as shown in drawing 9 , the salary of the moon calculates automatically.

[0028] Next, operation of the payroll calculation system by this example is explained. A worker inserts its own ID card 12 in a time recorder 10 at the time of attendance and recession. The generated stamping data is stored in the internal memory 14 in order of stamping. If an operator operates payroll calculation equipment 20, the time-recording data stored in the internal memory 14 of the time recorder 10 will be transmitted to the time-recording data memory 22 by the time-recording data transfer part 30 through the RS232C cable 18.

[0029] While the day diligence-and-indolence data operation part 32 refers the service system data memorized by the service data memory 24, the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc. calculates the transmitted stamping data. The calculated day diligence-and-indolence data is stored in the service data memory 24. If the diligence-and-indolence bundle day set beforehand comes, the day diligence-and-indolence data memorized by the service data memory 24 will be totaled by the period diligence-and-indolence data operation part 34, and the moon diligence-and-indolence data of the number of work days of the moon, **** days, absence days, all the office-going hour, all the

**** time, all the overtime, etc. will calculate by it. The calculated moon diligence-and-indolence data is stored in the moon diligence-and-indolence data area of the service data memory 24.

[0030] If moon diligence-and-indolence data can be found, it will be transmitted to the basic data memory 26 by the diligence-and-indolence data transfer part 36 from the service data memory 24. Then, the salary data which should be provided by the salary data operation part 38 in the moon based on the moon diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by the basic data memory 26 calculates. Thus, according to this example, payroll calculation for every worker can be quickly performed using the time-recording data collected by the time recorder, without delivering the data based on a floppy disk.

[0031] Not only the above-mentioned example but various modification is possible for this invention. For example, although the employment unit period was made into one month in the above-mentioned example, employment unit periods, such as one etc. week, are sufficient. Moreover, the example of each item of the service data in the above-mentioned example or basic data is illustration to the last, and may change with wage structure of a company.

[0032]

[Effect of the Invention] According to [above passage] this invention, the time-recording data of the attendance time of the worker accumulated in the time recorder, recession time, etc. is read. Transmit to the stamping data memory which memorizes stamping data, and it is based on the service system data defined beforehand. From the stamping data memorized by the stamping data memory, calculate the day diligence-and-indolence data of the working hours of each employment day, overtime, etc., store in a service data memory, and day diligence-and-indolence data is totaled based on the diligence-and-indolence bundle day set beforehand. Calculate the period diligence-and-indolence data of the working hours of the employment unit period set beforehand, overtime, etc., and it stores in a service data memory. It transmits to the basic data memory which memorizes the basic salary data which defined the period diligence-and-indolence data memorized by the service data memory for basic wage etc. Since the salary data which should be provided during the employment unit was calculated based on the period diligence-and-indolence data and basic salary data which were memorized by the basic data memory Payroll calculation for every worker can be quickly performed using the time-recording data collected by the time recorder, without delivering the data based on a floppy disk.

[Brief Description of the Drawings]

[Drawing 1] It is the block diagram showing the payroll calculation system by one example of this invention.

[Drawing 2] It is the explanatory view of the stamping data memory of the payroll calculation system by one example of this invention.

[Drawing 3] It is the explanatory view of the service data memory of the payroll calculation system by one example of this invention.

[Drawing 4] It is the figure showing the example of the service system data in a service data memory.

[Drawing 5] It is the figure showing the example of the day diligence-and-indolence data in a service data memory, and moon diligence-and-indolence data.

[Drawing 6] It is the explanatory view of the basic data memory of the payroll calculation system by one example of this invention.

[Drawing 7] It is the figure showing examples, such as the employee number in a basic data memory, a name of a worker, an address, a base item, a resident tax item, and a social insurance item.

[Drawing 8] It is the figure showing the example of the direct deposit item in a basic data memory, and a formula unit price item.

[Drawing 9] It is the figure showing the example of the period diligence-and-indolence data in a basic data memory, and salary data.

[Explanations of letters or numerals]

10 -- Time recorder

12 -- ID card

14 -- Internal memory

18 -- RS232C cable

20 -- Payroll calculation equipment

22 -- Stamping data memory

24 -- Service data memory

26 -- Basic data memory

30 -- Stamping data transfer part

32 -- Day diligence-and-indolence data operation part

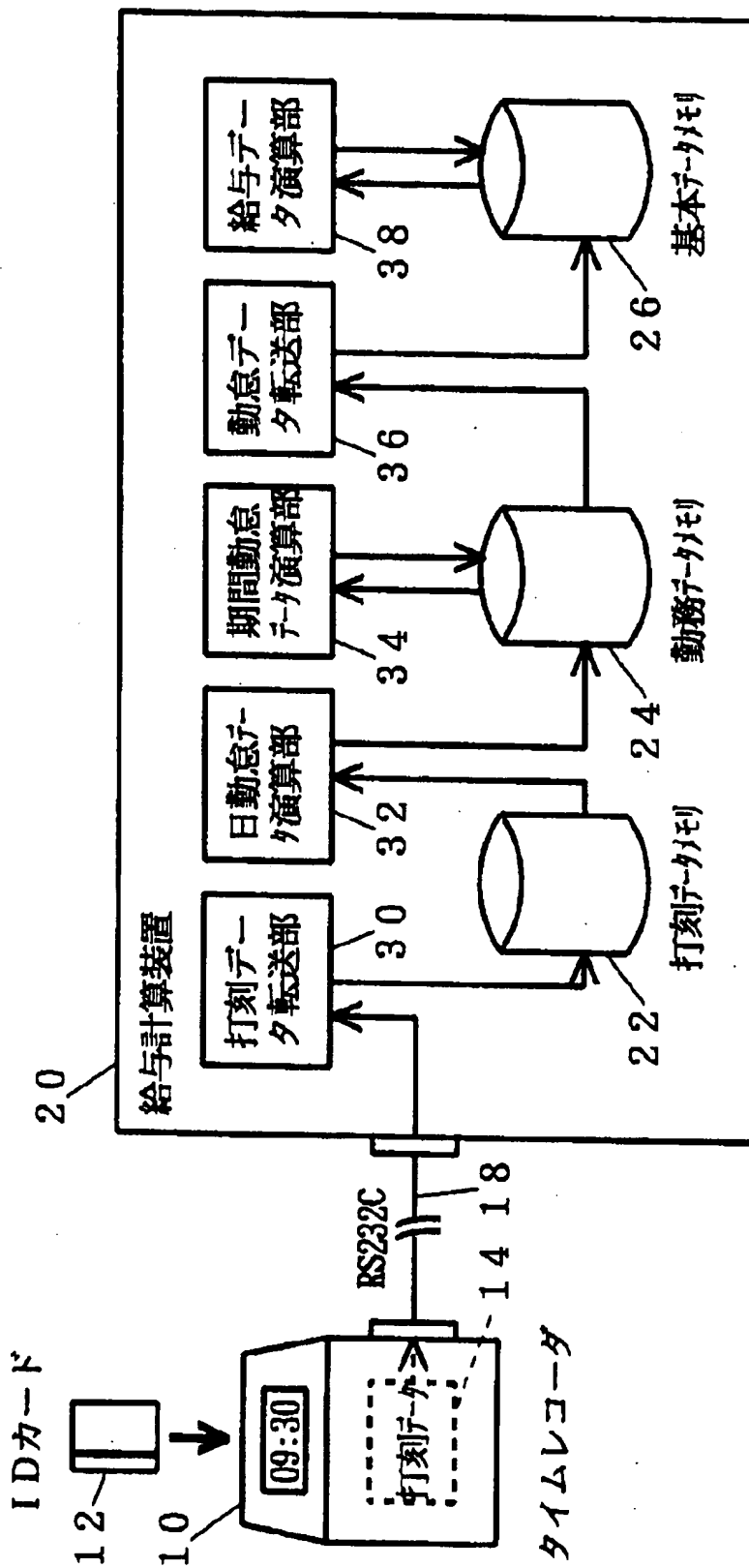
34 -- Period diligence-and-indolence data operation part

36 -- Diligence-and-indolence data transfer part

38 -- Salary data operation part

[Drawing 1]

給与計算システム



[Drawing 2]

打刻データ

打刻データ 1	端末番号	0001
打刻データ 2	I D 番号	0001
打刻データ 3	出退コード	1
打刻データ 4	異例コード	06
.....	操作時刻	月
.....		日
.....		曜
.....		時
.....		分
.....	異例時数	時
.....		分

[Drawing 3]

勤務データ 1	社員番号 ID番号 勤務体系 出勤 退社 遅早 残業	1日	出勤	0100
勤務データ 2		2日	退社	0001
勤務データ 3		3日	遅早	
勤務データ 4		4日	残業	
.....		5日	
⋮		6日	出勤	
⋮		7日	退社	
⋮		8日	遅早	
.....		9日	残業	
.....		10日	
月勤怠データ		出勤		
		休出		
			
		欠勤		
		出勤		
		遅早		
		残業		
			

http://dossier1.ipdl.inpit.go.jp/cgi-bin/tran_web_cgi_ejje?u=http%3A%2F%2Fdossier1.ipdl.... 4/2/2007

※ ※ ※ 社員勤務情報 ※ ※ ※

所属名：経理部 財務課		氏名
所属社員番号	11-00 0100	山田 一朗

【基本項目】	0000000001																								
【勤務体系】	<table border="1"> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td><td>日</td> </tr> <tr> <td>勤</td><td>勤</td><td>勤</td><td>勤</td><td>勤</td><td>勤</td><td>勤</td><td>勤</td> </tr> <tr> <td>休</td><td>通</td><td>通</td><td>通</td><td>通</td><td>通</td><td>休</td><td>勤</td> </tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土	日	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	休	通	通	通	通	通	休	勤
日	月	火	水	木	金	土	日																		
勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤																		
休	通	通	通	通	通	休	勤																		
【祝日勤務】	<table border="1"> <tr> <td>祝</td><td>日</td><td>勤</td><td>務</td> </tr> <tr> <td>休</td><td>日</td><td>出</td><td>勤</td> </tr> </table>	祝	日	勤	務	休	日	出	勤																
祝	日	勤	務																						
休	日	出	勤																						

次社員 前社員 所属 勤 状 況 画 面

印刷

X211

[Drawing 5]

所属名：経理部 財務課		氏 名		※ タイムデータ修正 ※		未入力社員 24	
所属社員番号		山田 一朗		平成 5 年 10 月分 (9月16日~10月15日)		未転送社員 24	
11-00	0100	山田 一朗		入力：済 転送：済			
日付	勤務体系	出勤	勤退	出勤時間	退勤時間	普通残業	深夜残業
09/16	休	0:00	8:35	18:34	7:45	0:30	
09/17	休	0:00	8:40	19:04	7:45	1:00	
09/18	休	0:00					
09/19	休	0:00					
09/20	休	0:00	8:43	19:17	7:45	1:00	
09/21	休	0:00					
09/22	休	0:00	8:39	18:46	7:45	0:30	
09/23	休	0:00					
09/24	休	0:00	8:41	19:24	7:45	1:00	
09/25	休	0:00					
09/26	休	0:00					
09/27	休	0:00	9:00	19:11	7:45	1:00	
09/28	休	0:00	9:00	18:49	7:45	0:30	
09/29	休	0:00	9:00	18:05	7:45		
合計	出勤	休出	特休	有休	欠勤	出勤時間	普通残業
20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	155:00	0:00
				0:00		8:00	0:00
				0:00		0:00	0:00
				再計算		中止終了	

[Drawing 6]

基本データメモリ

基本データ 1	社員番号	0100	
基本データ 2	氏名	山田	
基本データ 3	住所		
基本データ 4	基本項目		
.....	住民税項目		
⋮	社会保険項目		
	給与振込項目		
	計算式単価項目		
	1月勤怠	出勤	
	休出		
	遅早		
	残業		
		
	2月勤怠	出勤	
	退出		
	遅早		
	残業		
		
		
	1月給与	基本	
		役職	
		遅早	
		残業	
		
	2月給与	基本	
		役職	
		遅早	
		残業	
		
		

[Drawing 7]

[Drawing 8]

社員マスター		登録件数: 25	
社員番号 0100	フリガナ氏 名	住所	神奈川県横浜市中区山手
【給与銀行1振入項目】 振入口座番号 5001-1000 振入金額 0912011 振入回数 2000000 <input type="checkbox"/> 振入口座番号 <input type="checkbox"/> 振入金額 <input type="checkbox"/> 振入回数		【賞与銀行1振入項目】 振入口座番号 5001-1000 振入金額 0912011 振入回数 2000000 <input type="checkbox"/> 振入口座番号 <input type="checkbox"/> 振入金額 <input type="checkbox"/> 振入回数	
【給与銀行2振入項目】 振入口座番号 5001-1000 振入金額 0912011 振入回数 2000000 <input type="checkbox"/> 振入口座番号 <input type="checkbox"/> 振入金額 <input type="checkbox"/> 振入回数		【賞与銀行2振入項目】 振入口座番号 5001-1000 振入金額 0912011 振入回数 2000000 <input type="checkbox"/> 振入口座番号 <input type="checkbox"/> 振入金額 <input type="checkbox"/> 振入回数	
		【計算式単価項目】 食事 手当 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	
		《社員番号順》	

【現在: 2/2 ページ】
 直切替 短入力 中止 終了

[Drawing 9]

